

平成 22 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19530479  
 研究課題名（和文） 加賀象嵌職人の日記による近代都市の職人生活史の社会学的研究  
 研究課題名（英文） the Sociological Study of Life History of a Craftsman in a Modern City through a Diary of a Kaga Marquetry Craftsman  
 研究代表者  
 近藤 敏夫（KONDO TOSHIO）  
 佛敎大学・社会学部・准教授  
 研究者番号：70225621

## 研究成果の概要（和文）：

本研究が地方都市金沢の伝統職人の日記から近代化過程を描いたことは、社会学者や歴史学者から評価された。とくに伝統職人の生活史を、職業、家族、地域、政治の 4 つの側面で分析したことは歴史学の研究に貢献するものであろう。ただし、日記分析の方法、および歴史社会学の方法の開拓については、試行段階にとどまった。今後の課題は、歴史社会学の研究を共同で実施するための方法を開拓することである。

## 研究成果の概要（英文）：

It is evaluated by both sociologists and historians that this study describes the process of modernity in a local city, Kanazawa, through a diary of a traditional craftsman. In particular, the analysis of life history of a traditional craftsman in four aspects, i. e., vocation, kinship, local community and politics, might contribute to historical studies. However, it remains a trial level to develop both a method of diary analysis and that of historical sociology. The next task is to develop a method of historical sociology which enables collaborative studies.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	900,000	270,000	1,170,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：日記分析・近代化論・地方都市・生活史・職人

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 生活史法による実証研究は多いが、日記を資料とする研究はほとんどない。また日記

分析の方法が未開拓であり、従来の社会学では日記の記述がそのまま紹介されるか、補足資料として利用される段階にとどまってい

た。日記記述を質的データの基本資料として分析する研究がほとんどさなれていない。

(2) 職人についての社会学的研究が少ない。とくに伝統職人が近代化の過程で果たした役割および少数の伝統職人が近代化に適應した経緯についての研究が少ない。

(3) 歴史社会学が提唱されてきたが、近代都市の実証的研究が社会学では蓄積はまだ少ない。また、方法論上も、社会学と歴史学の交流が少ない。

## 2. 研究の目的

(1) 日記資料を主なテキストとし、また職人の遺族への聞き取りデータを補充して、社会学研究法としての生活史法に新たな領域を開拓する。

(2) 伝統職人の生活史の分析を通して、職人世界からみた近代化の様相を描き、日本近代化論の再評価を行う。

(3) 近代金沢を舞台として、近代都市の形成と展開を歴史社会的に分析する。また、歴史社会学の方法を開拓する。

## 3. 研究の方法

日記に加えて、その他故人が執筆した生活記録（大福帳や町会記録）を資料として収集し、さらに故人の遺族に面接調査を実施して補足資料とした。また、郷土史等の歴史資料を収集し、日記分析の背景となる資料とした。

本研究の目的の一つは日記分析の方法を開拓することであった。具体的には、日記分析を共同で実施するために、日記をエクセルでデータベース化し、研究協力者と共有した。また、エクセルで日記の文章をソーティングしたり、コーディングしたりすることによって、質的データの解釈と分析にパソコンを利用する方法を開拓した。

## 4. 研究成果

### (1) 現地調査と収集資料の整理

本研究は、象嵌職人の故米澤弘安の日記（『米澤弘安日記』）およびその他の生活記録を基礎資料とし、大正期の金沢を中心に職人世界からみた近代地方都市の形成と展開の過程を分析するものである。まず、現地調査と収集資料の概要を述べておく。現地調査については、研究代表者と研究協力者3名（青木秀男、坪田典子、水越紀子）が、金沢市で合宿調査を行った。遺族（故人の次女と三女）へのインタビュー調査と図書館等での資料収集を実施するとともに、金沢の近代史研究者との研究会（平成19年度と平成20年度）を開催し、各種アドバイスをいただいた。

収集資料としては、明治期から昭和期の大福帳、防火組合資料、町内会設立に関する資料を故人の三女の協力を得て行った。収集資料は、変体仮名や当て字に加えて、毛筆で執筆されていたため読解には時間を要したが、古文書読解経験者の協力を得て9割以上、読解を完了している。これらの資料は日記データベースに統合するためにエクセルやワードのテキストに変換してある。

ただし、故人の膨大な生活記録の収集整理が予定通りに進まず、現在も欠損期間の大福帳の収集を行っている。そのため、研究実施計画で予定していた生活記録のデータベース化が遅れており、日記データベースとの統合作業が完成していない。故米澤弘安の生活記録については未整理なもの、散逸したものが多く、遺族および研究者の協力を得て資料収集を継続している。

### (2) 学会報告とシンポジウム

平成19年度と平成20年度は、国際学会を含め、数度の学会発表を行い、国内外の社会学者から評価と批判を得た。また平成21年度には歴史学者をコメンテータに招いてシンポジウムを開催し、今後の研究課題を得た。

研究代表者および研究協力者3名が日記分析を丹念に実施してきたことに対しては評価を得た。ただし、歴史学の成果や視点を取り入れることができおらず、大きく2つの課題を指摘されている。

第一に、伝統職人の日記を解読してはいるが、近代史を捉えなおすという目的が達成できていない。郷土史を始めとして金沢の歴史研究の成果を積極的に取り入れる必要があると同時に、歴史研究の方法を参考にして歴史社会学の方法を構築する必要がある。一個人の日記を基礎資料として地方都市金沢の近代化を描写することの妥当性が問われた。

第二に、共同研究者が同一の日記を基礎資料として日記分析を実施してはいるが、研究代表者と研究協力者3名が、各人で研究テーマを設定しているにとどまり、全体像がみえてこない。日記分析のデータと技法を共有するだけでなく、共同研究としては各テーマの関連性や全体像についても明らかにする必要がある。

### (3) 研究協力者と研究協力者の役割分担

本研究の特徴の一つは、質的調査研究で共同研究をする方法を開拓することにある。研究代表者と研究協力者が各人のテーマで日記分析の作業を継続した。具体的には、研究代表者が伝統都市金沢の地域社会における職人の役割、研究協力者の青木秀男が職業倫理と生活倫理の関係、同坪田典子が政治意識、同水越紀子がジェンダー意識をテーマとした。

年間数回の研究会を合宿形式で開催し、各人のテーマについて報告し検討した。研究会では日記の解釈と分析が妥当であるかどうかを、また、全体像に関しては国内外の先行研究のレビューに基づいて、『米澤弘安日記』が日本資本主義の精神の典型として解釈可能であるかが問題にされた。

なお、各人の研究成果については論文、学会発表およびシンポジウムで公表してきた。

#### (4) 日記データベースの作成

研究代表者は質的データ（日記記述やインタビュー記録など）をデータベース化し、それを研究協力者と共有できるようにした。

日記データベースの構築の手順は、まず400字詰原稿用紙で4515枚換算の日記記述を34,980パラグラフに分割し、エクセル表にデータベースを作成した。このデータベースに各種情報を追加し、検索等の便益を図った。とくに故人の三女から得た日記記述の修正箇所（漢字表記や人名表記の間違い、当て字）の情報も追加し、公刊されている『米澤弘安日記』よりも正確なデータベースを作成することができた。

また、質的データの分析をエクセルで行う技法を開発したが、これには未完成のところもあり、実質的には近藤のみが分析に使うのみであった。日記データベースにエクセルを使用することにした理由の第一は、汎用性が高いことである。

社会学における質的研究の課題の一つは、データベースの共有とテキストの解釈や分析の信頼性を高めことであり、その課題に本研究はある程度の方向性を示したといえよう。

日記テキストの解釈と分析については、質的研究の古典とされるA・シュッツの現象学的社会学とG・H・ミードの象徴的相互作用論を取り入れることにした。具体的にはA・シュトラウス等が提唱したグラウンデッド・セオリーの方法を応用した。質的データとしては文書テキストが重要な位置を占めるが、その文書テキストをエクセルでデータベース化し、現象学的社会学と象徴的相互作用論の理論を応用して分析したことが、本研究の特色になる。

なお、この方法論的成果は、質的調査の初心者にも分かるように書籍や論文として公刊した。

#### (5) 研究成果の公表について

科研費調査は一旦終了したが、今後も調査を継続予定である。なお、これまでの研究代表者と研究協力者3名の研究成果をまとめて来年度に出版する予定であり、そのための原稿を集めている段階である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

##### ①近藤敏夫

インタビュー調査の技法 ― 現象学的社会学の具体的応用

佛大社会学、査読無

34号、2010年、1頁～13頁

##### ②青木秀男

職人の労働エートス ― 象嵌職人の日記から

ソシオロジ、査読有

第54巻3号、2010年、55頁～70頁

##### ③坪田典子

帝国の形成と帝国意識：『米澤日記』を事例として

文教大学国際学部紀要、査読無

第20巻1号、2009年、85頁～97頁

〔学会発表〕（計6件）

##### ①近藤敏夫（他に研究協力者3名）

金沢職人の日記から読む近代地方都市 ― 生活史研究と日記分析

大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター・シンポジウム

2009年9月7日

大阪市立大学高原記念館ホール

##### ②近藤敏夫

Kanazawa and Marquetry Craftsmen: the Strategy of Traditional City since the Meiji Era

International Sociological Association Research Committee 21（国際社会学会 RC21）  
2008年12月18日

東京国際会館

##### ③近藤敏夫

加賀象嵌職人の日記による近代都市と職人生活史の研究 ― 「伝統都市」の創出と職人の関与―

第81回日本社会学会大会

2008年11月23日、東北大学

##### ④坪田典子

加賀象嵌職人の日記による近代都市と職人生活史の研究 ― 「帝国意識」の性格とその形成―

第81回日本社会学会大会

2008年11月23日、東北大学

##### ⑤水越紀子

加賀象嵌職人の日記による近代都市と職人生活史の研究 ― 一家運営にみる家父長主義の理念と生活実態―

第81回日本社会学会大会

2008年11月23日、東北大学

⑥近藤敏夫

日記分析の意義と方法的課題 — 『米澤弘安日記』を事例として  
第80回日本社会学会大会  
2007年11月17日、 関東学院大学

[図書] (計1件)

①近藤敏夫 (藤田和夫 編集)

照林社

「質的研究をする！ ライフ・ヒストリー法で行う」『こらならでできる看護研究』所収  
2007年、153頁中、44頁～53頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

近藤 敏夫 (Kondo Toshio)  
佛教大学・社会学部・准教授  
研究者番号：70225621

(2) 研究協力者

青木 秀男 (Aoki Hideo)  
社会理論・動態研究所・所長

坪田 典子 (Tsubota Michiko)  
文教大学・国際学部・非常勤講師

水越 紀子 (Mizukoshi Michiko)  
社会理論・動態研究所・研究員